

# 2年学年だより

大淀中学校 2年 平成29年6月20日 第13号

## (\*^\_^\*)人と人とのすれちがい

空梅雨ですね。雨が降ったら嫌だなんて、ついつい個人的な都合で口にしてしまいがちですが、梅雨は恵みの雨です。夏を迎える前に恵みの雨が必要です。

さて、国語の教材で『小さな手袋』という小説を勉強しました。教科書の教材が年々変わっていく中で、『小さな手袋』はかなり以前から収録されている教材です。温故知新、不易の内容を含んでいる教材だからでしょう。

作者の次女であるシホが、雑木林を舞台として認知症のおばあさんとふれあい、すれちがい、そして魂のレベルでの交流を果たしていくというストーリーです。期末テストの範囲だからというわけではないですが、もう一度全文を味読してほしいと思います。

私的なことを書きます。今月2日に父を亡くしました。入退院を繰り返す生活を数年前から過ごしていたので、今回も一ヶ月ほどの入院で家に戻れるだろうと思っていました。

5月27日土曜日に晩ごはんと一緒に食べました。仏さんのような顔をして、じっと私の顔を見ていました。その表情が気になって、翌日曜日の夕方、実家を再訪しました。

小一時間ほど珈琲を飲みながら、よもやま話をしました。私が辞去してから、数時間後に体調が急変し、5日後に亡くなりました。

いまだにその事実が腑に落ちていません。実家に帰れば、いつもの場所に父が座っているような感覚が残っています。

寡黙な人で、また父親と息子という関係から、微妙な間合いがあり、じっくりと話をするということが稀でした。

父が入院してから、2日間は意識があったので、珍しく私の方から話しかけました。

酸素マスクをつけた状態で、父はしっかりと意思表示をしていました。

今年に入ってから、家のこと母のこと自ら望むことなどを、ぽつりぽつりと話していた父でした。

人工呼吸器を取り付けることを頑なに拒んでいた父の意思を確認すべく耳元で父に問いただすと、ギュッと力強く私の手を握り返してきました。

無口で頑固。自らを語ることなく、黙々と働いていた父。手をあげられたことは、一度もありませんでしたが、褒められるということもなかった。(母親には口にしていたらしいのですが・・・)

昨日は父の日でした。父の遺影の前に座って、話をしました。[すれちがい・・・やったんかなあー。][今年に入ってから、短い時間やったけど、話したなあー。][今もこうして向き合って、話してるやないか・・・]

心の中で父と語り合っていると、部屋の振り子時計が鳴りました。私の幼い時分から時を告げていた柱時計です。5月29日に父がゼンマイを巻いていた時計です。父の遺影の前から腰を上げて、ネジを巻きました。

亡き父の代わりに、ネジを巻くのは私の仕事です。命のある限り・・・。

## 読書案内 50字評

### 『容疑者Xの献身』

東野 圭吾著

天才数学者の石神は、想いを寄せる隣のために、完全犯罪を企てる。本当の献身を知る。東野ミステリーの金字塔。

(2年3組 前田 咲恵)

※学年黒板のディスプレーが変わりました。

3組の青島 七夏海さん作成。

飾り付けは、2組木村光那さんと

3組の田原萌絵香さんがしてくれました。

